



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【茨城県】

1 実践テーマ	【 IV・V 】
2 実施対象者	八千代町立東中学校 全校生徒 228名 保護者 50名 地域住民 100名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 1 教科名 () ② 行事名 (オリンピック・パラリンピック教育講演会) 3 その他 () (2) 地域における活動 1 イベント名 () 2 その他 ()
4 目標 (ねらい)	欧州を拠点に活動しているスポーツジャーナリストに講演をいただき、世界の国々のオリンピック・パラリンピック教育や、日本とフランスの選手育成システムの違いについて知り、異文化理解や国際教育の促進を図る。
5 取組内容	<p>本校卒業生のジャーナリスト・赤塚美春氏にご講演いただいた。</p>  <p>フランスのフットボール界に精通し、有名選手に直接インタビューをした実績を持つ赤塚氏が、学生時代どのようなことに興味や関心を抱き、どのように過ごしてきたのか。現在に至るまでのご自身の経緯を中心に、お話をいただいた。</p> <p>また、フランスを拠点として活動する中で、赤塚氏が肌で感じたフランスと日本の違いについて聞くことで、“外から見た日本”という新たな視点を発見することができた生徒も多かった。</p> <p>さらに、スポーツを取り巻く環境の違いや、日本独自の制度である“部活動”についても触れ、赤塚氏自身が部活動で何を学び、その力が現在どのように活かされているのかについてもお話いただいた。現在の生活が、将来にどうつながるのか、赤塚氏のお話は、生徒自身が自らの学校生活を振り返るきっかけともなった。</p> <p>講演の最後には、著書6冊とレプリカユニフォームを寄贈していただいた。図書は、生徒が自由に手に取り、閲覧できるよう「赤塚三春文庫」として展示コーナーを設けた。</p> 

【以下、6冊】

- 『グリ、ときどきグランボー ガイドブックにないフランスの素顔』
- 『フランスサッカーの真髄 ～ブルーたちからのメッセージ～』
- 『フランスジュネスの反乱 主張し行動する若者たち』
- 『レ・ブルー黒書 フランス代表はなぜ崩壊したか』
- 『フランスの育成はなぜ欧州各国にコピーされるのか』
- 『ハリルホジッチ思考 成功をもたらす指揮官の流儀』



ユニフォームは、校長室前の展示スペースに飾らせていただいた。
来校した方にも興味をもって見て頂けている。

6 主な成果

講演を通じて、日本を外から見るという視点を発見し、広い視野で世界やスポーツを捉えることができるようになった。講演を聞いた生徒からは、「部活があるのは日本だけだと初めて知った。」「自分も外国で働いてみたい」等、スポーツや世界への興味・関心が高まった様子がみられた。
また、講演の中で、“中学校時代の部活動での経験が、現在の仕事のルーツとなっている”といった趣旨のお話をいただいた。現在の生活が、将来につながることを実感することができ、自身の今後の生活について考えるきっかけともなった。また、現在、部活動で悩みを抱える生徒への大きな励みともなった。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

講師としてお招きした赤塚氏は、本校の卒業生である。また、姪が在学中ということもあり、より身近な存在として感じることもできたのではないかと考える。中学校卒業後の進路や、将来について、生き方について、キャリア教育の観点からも有意義な取り組みであった。

8 主な課題等

海外に在住ということもあり、事前に十分な打ち合わせをすることが困難であった。今回は、赤塚氏の講演を聞くという一方通行の形式となったが、双方向的なコミュニケーションや、体験的な活動を取り入れることで、より充実した内容にすることができたのではないかと考える。

9 来年度以降の実施予定

体育理論の授業とも関連を図り、今回の講演を機に高まったスポーツへの興味や関心をさらに発展させ、文化としてのスポーツの価値を高めていきたい。また、「する・見る・支える」といったスポーツへの多様なかわり方を授業でも実践することで、自国で開催されるオリンピック・パラリンピックに、何らかの形で携わることができる人材を育てていきたい。